

# 進藤委員からの提供資料

## 龍野の「畳堤」(たたみてい)について

### 1. はじめに

あかとんぼ舞う、童謡の里「龍野」には、揖保川という一級河川がまちの中心を流れている。その昔、渦川・暴れ川といわれていた揖保川から、まちを守る堤防である。しかし、通常の堤防とは違い、橋の欄干みたいに格子状となった、不思議ないわゆる特殊堤である。

### 2. その概要

全長は約3,144m。戦後まもなくの昭和22年から10年の歳月をかけて築かれた。正式にはパラペット窓抜き工法というそう。この格子状になった柱をよく見ると、溝がほってあり、ここに畳(本間畳サイズ)がすっぽり入るといふ寸法だ。

### 3. 畳堤ができた経緯

山紫水明の揖保川の水の流れ、自然の風景が見られる堤防にしたいという、いまも昔も変わらぬ流域市民の切なる願い。

今から半世紀以上も前のこと、当初計画のコンクリート壁面状の特殊堤から、揖保川とふるさとを愛する流域市民の英知と情熱の結果が、現在の姿となっている。



《畳堤 出典：揖保川流域委員会ホームページ 現地視察の概要 龍野橋付近(龍野市)より》

その結果、通常時は川の景色も外から容易に見ることができるし、また人が川に近づきやすく・親しみやすくなっている。しかし、いざ増水時には、周辺住民が緊急出動し、ここに畳を差し込んで濁流の氾濫を食い止め、洪水からまちを守るというわけだ。

### 4. 使用する畳は...

合計で、使用する畳が1,277枚必要とされる。

そのうち800枚ほどは、赤とんぼ文化ホール内、河川情報ステーションの水防倉庫に保管されているが、あと足らずの480枚ほどは、今でも実際の民家から流域地域住民の皆さんが、いざというとき畳を剥がして搬出し、使用するということだ。

### 5. 今まで実際に使用されたことは...

一昨年の2001年6月24日に、多くの報道陣などの見守るなか、半世紀以上前の設置以来初の、水防団(龍野市消防団)による実施訓練がなされたほかは、今まで幸いなことに、実戦的に使用されたことはないとのことである。



《畳堤に畳を入れた状況 龍野市消防団ホームページ こんな堤防があったんだ! その名を『畳堤』より》

### 6. 畳堤は、龍野の誇るべき「参画と協働」の歴史遺産

ともすれば、もはや周囲の情景に溶け込み、今でこそ、何の変哲もない物のように思われがちだ。しかし、これはまさに、治水と環境(景観, 生活なども含む)の共生、治水流域住民参加という、公民パートナーシップ・参画と協働の、(隠れた)誇るべき地域歴史遺産(シンボル)、ないしは特徴的な文化資源といっても過言ではあるまい。

### 7. むすび

21世紀のいまこそ、このすばらしき先達の高い意識と心豊かな気概を、(歴史の中から)学ぶべきときではなからうか...

〔記：揖保川流域委 委員 進藤 淳三〕

《主な参考資料・参考文献》

別紙『揖保川の「畳堤」情報一覧』参照

## 揖保川の「畳堤」情報一覧

### ◇龍野市 揖保川の「畳堤」に関する情報

#### 【TV放送】

- ①朝日放送『Newsゆう』 2001年6月25日(月) 18:18～放送 「揖保川の畳堤」  
[http://www.asahi.co.jp/you/album\\_0106.html](http://www.asahi.co.jp/you/album_0106.html)

#### 【ラジオ放送】

- ①ラジオ大阪『近畿 川ものがたり ～川に学ぶ～』 2000年7月15日(土) 16:30～17:00 放送 「景観を大切にしてきた人たち ～揖保川・タタミ堤と水辺の学校」

#### 【新聞】

- ①神戸新聞 2002年7月26日(木)『正平調』「畳堤」  
<http://www.kobe-np.co.jp/seihei/index-title.html>  
<http://www.kobe-np.co.jp/seihei/index0207.html>
- ②神戸新聞 2001年6月6日(水)「畳堤初の水防訓練 24日、龍野・揖保川」  
<http://www.latoday.ne.jp/news/20010606.html>
- ③神戸新聞 1997年10月4日(土)『週間日誌』「揖保川の治水装置「畳堤」が脚光」  
<http://www.kobe-np.co.jp/sinsai/97/nissi971007.html>

#### 【雑誌】

- ①『ふれあい近畿』 2001年9月号 近畿地方整備局 「特集 再生、新生、変革 ～西播磨に展開する新しいまちづくり」 「播磨の小京都・龍野」  
[http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/kinki/09/02\\_1tokusyu.html](http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/kinki/09/02_1tokusyu.html)
- ②『近畿 川ものがたり ～川に学ぶ～』 vol. 4 2000年8月 ラジオ大阪 「景観を大切にしてきた人たち ～揖保川・タタミ堤と水辺の学校」
- ③『かわの情報誌 さらさ』 2001年春号 (財)河川情報センター 「特集一川・散歩道」 「桜を訪ねて、川辺を歩く ～兵庫県龍野(たつの)市 揖保川の水が生み、育んできた龍野の伝統産業」  
[http://www.kkr.mlit.go.jp/river/sarasa/sas\\_01spring/sanpo\\_4.html](http://www.kkr.mlit.go.jp/river/sarasa/sas_01spring/sanpo_4.html)

#### 【その他】

- ①揖保川流域委員会ホームページ 現地視察の概要 ⑨龍野橋付近 (龍野市)  
<http://www.iboriver.jp/03/gentisisatu/genntisisatu09.html>  
※現地説明資料及び視察時の説明の共にpdfファイル有り
- ②同上 現地視察の概要 ⑩揖保川河川防災ステーション (龍野市)  
<http://www.iboriver.jp/03/gentisisatu/genntisisatu10.html>  
※同上
- ③龍野市消防団ホームページ こんな堤防があったんだ! その名を『畳堤』  
<http://members18.cool.ne.jp/~hyogoshoubou/12-tatsu/>

等々

◇参考 宮崎県延岡市 五ヶ瀬川（一級河川）の「畳堤」に関する情報

- ①九州地方整備局 延岡工事事務所のホームページ 新着情報 平成 13 年度 ■7月7日  
畳堤記念碑除幕式の開催（龍野市の揖保川の畳堤の記述もみえる）  
[http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/sintyaku/h13log/sin0707\\_s.htm](http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/sintyaku/h13log/sin0707_s.htm)
- ②同 上 新着情報 平成 13 年度 ■7月 14～15 日 川の日ワークショップ「準グランプリ  
受賞」について  
[http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/sintyaku/h13log/sin0714\\_s.htm](http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/sintyaku/h13log/sin0714_s.htm)
- ③宮崎県延岡市ホームページ（総務部総務課広報係） 広報のべおか まちの話題（平成 13  
年度） 先人の防災意識を学ぼう（7月7日 北町）  
<http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/soumu/soumu/kouhou/wadai/200108/070703.html>

等々

以上



2002/07/26

畳堤。聞きなれない言葉だが、「たたみでい」と読む。字のとおり、畳の堤防だ。河川の増水時、堤からあふれる濁流を、畳でせき止めようとする“大胆不敵”な考えで造られた。

国土交通省姫路工事事務所によると、畳堤は国内一級河川では三カ所だけ。岐阜市の長良川、延岡市の五ヶ瀬川、それと龍野市、揖保川町、御津町にかけての揖保川である。中でも、昭和二十二年から十年かけて築かれた揖保川のは総延長三一三三・四メートル、全国最長を誇る。

仕組みは簡単だ。欄干のように組み立てた縦、横の支柱の間に畳をはめ込み“簡易擁壁”を造る。普段は、欄干だけを露出させておけるが、濁流が堤防を越えそうになると、周辺住民が緊急出動、一気に畳をはめ込んでいく。

畳は、水を含むと強度を増す。土のうより手軽で、意外な防災効果が期待できる。これまで、実際に活用したことはないが、問題は千二百七十七枚要る畳の確保だ。現在、約八百枚が保管されており、いざの際、それに加えて周辺民家が持ち出す仕組みになっている。

揖保川は当初、コンクリート壁を築く計画だった。ところが周辺住民からクレームが出た。「川原に出られない」「美しい川面が隠れる」「川と暮らしの場が断絶する」。景観、市民の声と協働、防災計画。ぎりぎりの接点で、この畳堤だった。

受益者の声を聞きつつ、災害をどう防ぐか。「脱ダム論議」が、かまびすしい中、半世紀も前から、官・民の「良い関係」ができあがっていたことを、あらためて思い起こしたい。

[ 閉じる ]

Copyright(C) The Kobe Shimbun All Rights Reserved

「出典：神戸新聞ホームページ、2002年7月26日『正平調』掲載記事より」